

第43回地域医療構想部会 学習会 & 意見交流会

## 「地域医療を守る岩手県連絡会」 の取り組み

2022年12月9日

地域医療を守る岩手県連絡会

代表 中野み子

### はじめに

岩手県立病院…20病院・6地域診療センターで構成

- \* 「岩手県地域医療構想」2016年春岩手県が策定  
(← 2015年いのちのプロジェクト) 「3,164床減」  
「地域医療の充実・県民の命を守る連絡会」  
(労組連絡会)と「岩手県地域医療を守る住民組織  
連絡会」(住民連絡会)が活動
- \* 公的・公立病院再編統合「424」病院公表  
2019年9月



労組連絡会+県社保協が加わった  
「地域医療を守る岩手県連絡会」として活動を再  
開



## 1. いのちのプロジェクト2022春までの経過

2020年10月：職員・住民に十分な説明がないまま  
県立釜石病院の  
5病棟（循環器内科・脳神経外科）が休床

2021年3月：同年10月から県立釜石病院で  
分娩受け入れ停止が発表

5月：釜石「地域医療と国立病院を守る会  
（以後、釜石守る会）」主体で  
「県立釜石病院の充実を求める」  
署名を開始  
1カ月で15,336筆を集約。



野原保健福祉部長と  
小原医療局長に提出し、要請・  
懇談

2021年6月  
県・医療局要請  
（署名  
15,586筆を  
手交）





## 2021年9月 請願者を沿岸地域に拡大

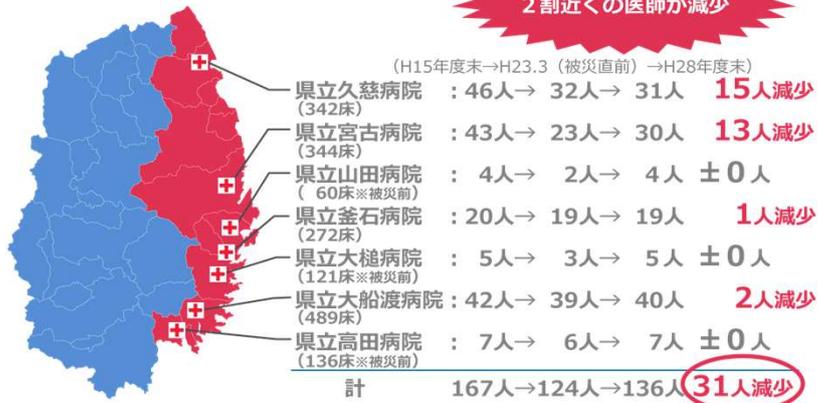
- ◇久慈地域医療を守る会（久慈病院）
- ◇宮古病院をよくなる会準備会（宮古病院）
- ◇山田町の地域医療を守る会（山田病院）
- ◇地域医療と国立釜石病院を守る会  
（大槌病院、釜石病院）
- ◇気仙地域労連（大船渡病院）
- ◇県立高田病院を守り発展させる市民の会  
（高田病院）

2021年  
6月28日  
県議会請願提出



継続審議となった

## 岩手沿岸地域の県立病院の位置と 医師数の変化



出典：岩手県医療局



# 「地域医療を守る岩手県連絡会」の 会議は？

## <構成団体>

- \* いわて労連
- \* 岩手医労連
- \* 岩手自治労連
- \* 県医労（事務局）
- \* 県社保協

## <参加メンバー>

10～12名

## <会議の時間>

10時～12時が多い

## <請願採択まで>

- ①21年2月4日
- ②21年2月26日
- ③21年4月5日
- ④21年5月10日
- ⑤21年7月12日
- ⑥21年9月14日

## <いのちのプロジェクトの取り組み>

- ⑦21年10月12日→住民アンケート等
- ⑧21年12月7日

①22年2月1日→アンケート意見交換

②22年3月8日→住民アンケートの提案

③22年3月22日→要項を議論（別紙）

④22年4月14日→ポストイングの具体化

⑤22年5月11日→入力作業等

⑥22年7月26日→到達

⑦22年8月31日

⑧22年9月22日

⑨22年11月7日

⑩22年11月28日→保健福祉部長・医療局長への要請、記者会見

## 地域の医療をまもり隊

2022 春



＝部内・団体用＝

あなたの声を！ プロジェクト

### <要綱>

1. プロジェクトの名称  
「地域の医療をまもり隊 ～あなたの声を！プロジェクト2022～」  
→ 略して、「いのちのプロジェクト 2022」
2. 目的  
昨春秋、岩手県議会では、「岩手地域における県立病院の医療確保による機能の充実を求める請願」が議場一致で採択されました。しかし、医師不足の状況は変わらず、不便や不安なことが続いているのではないかと懸念します。そこで岩手3地域（山田町・大槌町・東石巻）のみならず、県立病院への要望など幅広い声を集めていただくアンケートに取り組むことになりました。  
今回、盛岡市内での医療格差は否定できないとの観点に立ち、岩手地域にスポットをあて、現状を把握し「誰もがいつまでもどこでも安心して受けられる医療」とは何かを共通の認識となるよう可視化したいと考えます。
3. 方法  
住民アンケート：ポスティング
4. 対象地域  
① 山田町 3000 枚  
② 大槌町 3000 枚  
③ 東石巻市 3000 枚
5. スケジュール  
・3月中：作成  
・4月中旬：ポスティング  
・7～8月までの  
・9月 集計行動

※ 保険医協会は4月中旬～5月

## 日程が決まったら保険医協会へ報告

6. 今後の活用
  - ・記者会見
  - ・医師会長、病院長（県立大槌・東石巻院・山田病院）への要請・懇談
  - ・各方面への情報提供
7. アンケート内容
  - ・求められる診療体制や交通アクセスが書き順りになるようにしたい。
8. プロジェクトチーム  
地域医療を守る岩手県連絡会  
（報告に賛同していただける団体：主に地域労連など）
9. 事務局と会費・運営費  
事務局を県医労におく：〒020-0023 盛岡市内丸11-1 合同庁舎8階  
電話019-62318271  
FAX 019-62318273  
Eメール mail@state-hor-iroa.org  
運営費：企画に応じて加盟組織での運営費の分担とする。  
カンパや参加費の徴収についても企画によりその都度検討する。  
会費：賛同団体からの会費徴収は行わないことを基本とする。
10. まとめ  
①ポスティングを中心にアンケートの実施  
・集約目標：3000枚×3の20%＝1800枚  
・対象：岩手県を中心に3地域とする  
②対象地域での懇談会も構築  
③要求化  
④要請行動  
⑤「学習」宣伝・報告活動  
記者会見や地方紙への掲載、ピラ作成など

以上

### 3. 実際の取り組み



山田駅でのポスティング打ち合わせ



大槌駅前（上）と  
釜石平田駅前（下）

ポスティング参加者



## ポスティングの具体化

22年4月14日

医師確保をめざした今後の運動に向けて

- ①地域医療を守り隊要項（再掲）
- ②「あなたの声を聞かせてください」住民アンケート（案）
- ③3地域のポスティングについて（案）

#### <山田>

4月28日（木）10時～12時 山田駅前集合  
（配布地図を佐藤照彦会長に依頼）

- ◇ 目安：2人1組で300部 ⇒ 20人体制で3000部
- ◇ 地元への協力要請：「4/12（山田町）担当課長に話した」と佐藤会長  
・・・県医労・自治労連・宮古地域労連等かどうか◇その他

#### <大槌>

4月28日（木）14時～16時 大槌駅前集合ではどうか  
（配布地図 未定）

- ◇ 目安：2人1組で300部 ⇒ 20人体制で3000部
- ◇ 地元への協力要請  
・・・県医労・自治労連・釜石地方労連はどうか
- ◇ 宿泊について  
～平田パシジョンを推薦～（往復の旅費より安い）

#### <釜石市平田>

4月29日（金）9時半～11時半 平田駅前集合ではどうか  
（配布地図 未定）

- ◇ 目安：2人1組で300部 ⇒ 20人体制で3000部
- ◇ 地元への協力要請  
・・・県医労・自治労連・釜石地方労連はどうか

# ポスティングの振り返りとその後

22年7月26日時点

## ①配布について

- ・のべ71名の参加者で4/28・4/29、6700枚配布。  
後日山田町400枚、大槌500枚、釜石1200枚の協力を現地佐藤照彦さん・中村公男さん・岩鼻さんに協力いただき、さらに残200枚あり自治労連の組合員（山田町職）へ協力をいただいた。

## ②集約状況と入力作業について

- ・7月25日現在：757世帯より到着。
  - ・県医労の他、自治労連から1000部を入力してもらいました。
- 入力作業に関わった率直な感想として、①記述が多くなかなか進まなかった、②医療従事者への労いと感謝が多かった、③大きな声がたくさんあり勉強になった等あり。

## ③まとめ・分析

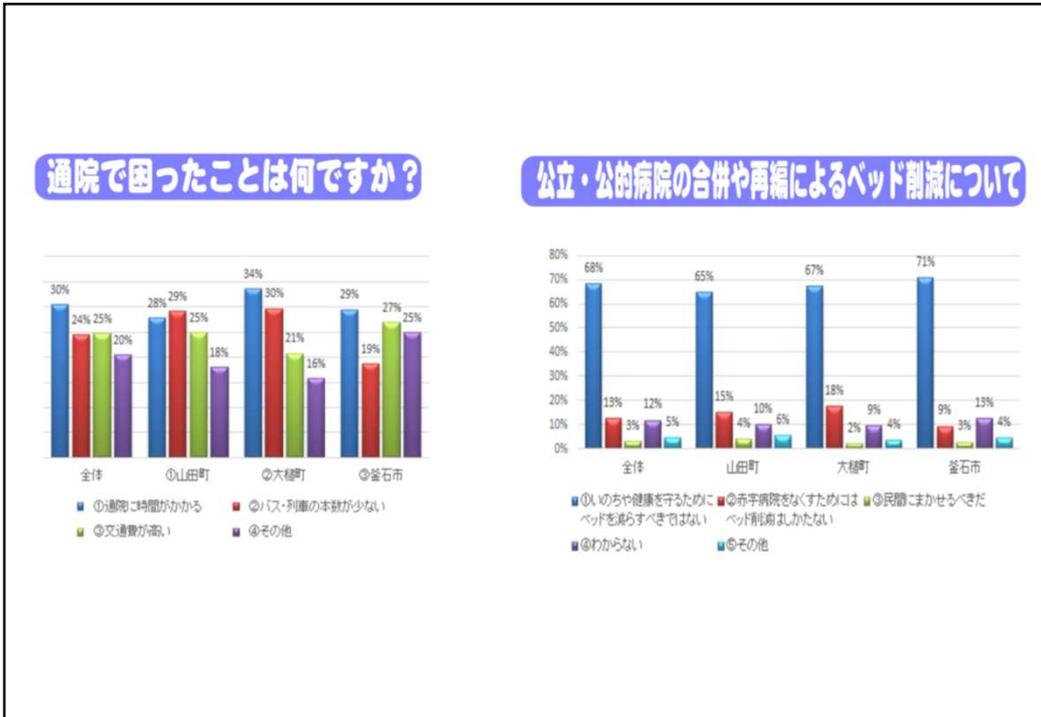
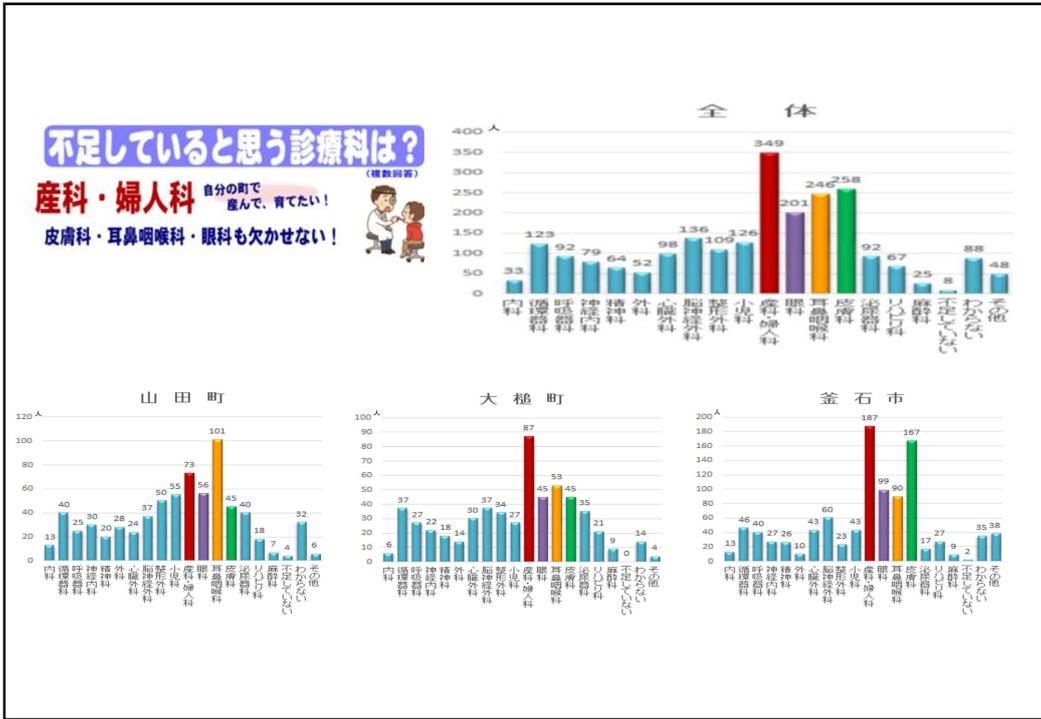
- ・中間まとめ：住民向けと連絡会ニュースを発行  
住民向け⇒山田町の守る会（佐藤照彦さん）へ500枚、久慈地域労連へデータ、宮古守る会準備会（前川昌人さん）へデータ、釜石守る会事務へデータ、高田守る会（阿部勝さん）へデータ送付済み



アンケート用紙と返信があったアンケートの一部



地域	配布数	回収数	回収率
山田町	2,100枚	240枚	11.4%
大槌町	1,800枚	154枚	8.5%
釜石市	5,100枚	349枚	6.8%
その他		14枚	



## アンケートに寄せられた声

- 急に病気になっても、診てもらえない。  
紹介状がなくても診てほしい。
- 診療科が少ない。受診できる日が限られ不便。  
担当の医師がいないので診てもらえないときがある。
- 待ち時間が長いので疲れる。夜間や休日も診てもらいたい。
- 診療科が無いため、適切な治療が受けられない。  
交通費だけでも生活を圧迫している。
- 産婦人科がなく大船渡に通っている。（山田町）

## アンケートに寄せられた声

- 若い人たちの出産・育児を思うと心配。子育て世代の  
住みづらい町になることが心配です。
- 高齢者は眼科・耳鼻科・リハビリ科が必要。あると助かる。
- 急に診てもらいたい時に、県立病院に行くには紹介状が  
ないと行けないので困る。紹介状が無くても診てほしい。
- 診療していない科の病気になったとき、遠くまで出かけて  
行かなければならないのが不便。
- 大切ないのちや健康を守るためにも県立病院が重要な施設。  
本来あるべき姿を望んでいます。

## アンケートに寄せられた声

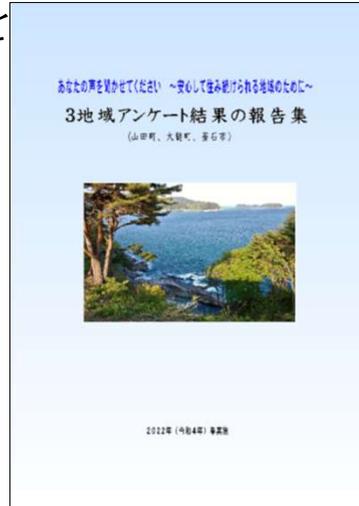
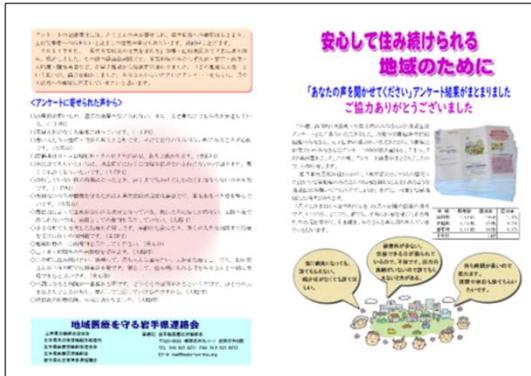
- 居住地によって生死が分かれる状況となっている。救急なのに昼しか診ない。医師不足で診られないでは、病院としての役割を果たしていない。
- 小さな町でも充実した治療を希望する。高齢社会になり、遠くの大きな病院まで治療を受けに行くのは困難。
- 地域医療の中心的役割を果たしてください。
- 土・日・時間外の外来診療を望みます。

## アンケートに寄せられた声

- この町に住み続けたい。結婚して、赤ちゃんも産みたい。大好きな海と山。でも、医者が不在の町では将来が不安。安心して、住み続けられる町をみなさんと一緒に実現できると良い。
- 大震災前と比べ、専門医と言われる個人病院が無くなり、結果的に県立病院に行かざるを得ない。
- 津波後の医療免除、本当に助かりました。

# 冊子とリーフレットを作成

リーフレット=1万部、冊子=500部



# アンケート結果の活用・これまでの取り組み



オンライン（9月21日）や山田町に伺って（10月13日）報告会を実施。  
釜石守る会とともに、釜石病院長と大槌病院長懇談（10月17日）実施。  
山田病院長（12月5日）とも懇談実施

# アンケートの活用・これまでの取り組み

県福祉部長・医療局長への要請懇談

記者会見



## NHKがニュース報道（2022年11月28日）

### 沿岸部の地域医療充実を 労組などが医師確保を県に要請

11月28日 17時58分

県内では特に沿岸部で、産婦人科医などの医師不足が深刻になっているなどとして、労働組合などでつくるグループが、県に対して医師の確保を進めるよう対応を求めました。

28日は労働組合などでつくる「地域医療を守る岩手県連絡会」のメンバーが、県に対し、医師の確保などを求める要請書を提出しました。

このグループによりますと、ことし4月から7月にかけて釜石市と大槌町、山田町の住民を対象に地域医療についてアンケート調査を行ったところ、回答した700人あまりのうちおよそ半分が、産婦人科医の不足に困っていると答え、中には通院のため、別の自治体に移り住んだ人もいたということです。

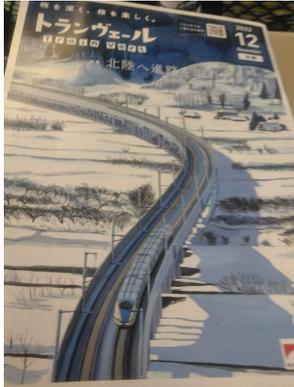
また、通院に時間がかかって困ると答えた人も30%に上ったということです。

このためグループは、地域で必要な医療を受けられるよう地域ごとに設けてある県立病院に医師を確保し、病院の縮小や統合などはしないよう求めています。

岩手県は、国が3年前に公表した医師の充足度を示す指標が全国で最下位となり、県立釜石病院では去年10月、産婦人科での分べんの取り扱いが休止されています。メンバーの鈴木寿子さんは「沿岸部は適切な医療を受けられないうえ、受診にかかる交通費も大きく、内陸部との医療格差が出ています。県内各地域にある県立病院が縮小や統合に向かわないよう、行動を起こしていきたい」と話していました。



# トランヴェール 12月号



## 岩手県立病院医師募集



## 県が「行財政改革」に関する報告書を公表

9月28日

岩手日報に「県立病院、学校適正化を」の記事が掲載

医療局の創業の精神

⇒県下にあまねく良質な医療の均てんを



県や医療局の方針転換か？

県・医療局の要請・懇談を設定

11月28日 県保健福祉部長・医療局長への要請項目

- 1 県立病院の縮小・統合に反対します。
- 2 9つの医療圏の広域化は、住民が安全・安心して医療を受けられない状況を加速させるため、行わないでください。
- 3 県立病院に医師を確保して、各二次保健医療圏域内で必要な医療が受けられるよう機能の充実を積極的に進めてください。



## 12月5日 県議会での答弁

### 担当部長答弁

諮問形式は取っていない。た  
研究会としてとりまとめ。た  
の人口減少、少子高齢  
化などあるべき施策の  
として、今後の運営の参  
になるもの。まずは、こ  
状況を県民に理解して  
だき、議論していく。

### 知事答弁

県立病院は住民の皆さん  
が、自らの共同の施設か  
始まっている。これを県  
医療の精神に引き継ぎ  
た。今後の検討について  
精神引き継ぎ丁寧な議  
要と考える。

2022年9月の知事選見据えた  
対応も。

## まとめ

\* 県医労は、発足した当初より国の政策や方針に沿うよう  
な形で進められる「市町村移管」「統廃合」「合理化」縮  
小再編「攻撃」に座して待つのではなく、正面から対峙して  
患者・地域住民のみなさんと（県医労70周年記念誌）～そ  
の貫してたたかってきた。（県医労70周年記念誌）～そ  
のことを引き継いでいくことが大切と考えている。

\* 2015年には地域医療構想策定の動きを前に、秋田県社保  
協から講師にきていただき学習。2021年春の取り組みでは、  
鹿角の医師確保の取り組みを学んだ。

\* 「軍拡」と改憲の動きが加速する中、憲法を生かし守る運  
動がますます求められている。